

「地域の子どもは、地域で育てる！」

～むなかた一（いち）行きたい学校にするために～

宗像市・吉武地区コミュニティ運営協議会

宗像市立吉武小学校学童保育所・正助さんの寺子屋 運営管理責任者 高山 靖生

【地域の概要】

吉武は宗像の最東部に位置し、里山や鎮守の杜深くに抱かれた自然と田園ひろがる田舎です。奥地には宗像を縦断する釣川の「源流」があり、樹齢数百年の天然記念物も健在です。宗像にある県、市指定文化財の仏像のうち半数近くがあり、唐津街道の赤間宿と長崎街道の木屋瀬宿を結ぶ参勤交代の道がとおる歴史街道、宗像有数の古社八所宮、平山天満宮、武守権現神社、孝子武丸正助、維新の志士早川勇など古代から幕末、そして今日まで歴史遺産が蓄積されています。

① 事業名「正助さんの寺子屋事業」

② 事業の目的

(1) 放課後の学習会、地域住民や大学生が講師となり自主学習会を行い、児童の学力向上を目指す。

(2) 夏休みの体験塾、地域資源を活用し、体験活動を行い、歴史、文化を伝える。

(3) 宿泊体験活動（通学合宿）の実施、異年齢で集団宿泊体験し、家庭の大切さを認識し、連体制、協調性、自主自立性、忍耐力などを養い、心豊かに生きることのできる資質や能力を育む機会を提供する。

③ 事業の実施主体

吉武地区コミュニティ運営協議会

④ 連携・協力機関・団体等

吉武小学校、福岡教育大学、正助さんの寺子屋の会、正助さんの寺子屋見守り隊等

⑤ 事業予算

(イ) 収入

活動費	400,000円	コミュニティ子育て支援事業
通学合宿補助金	100,000円	福岡教育事務所
参加費	100,000円	
合計	600,000円	

(ロ) 支出

放課後学習会	400,000円	講師謝礼、教材費など
夏休み体験塾	50,000円	食材費、施設使用料など
通学合宿	150,000円	食材費、もらい湯、ボランティア費用など
合計	600,000円	

⑥ 実施に至る経緯

吉武地区は、年々子どもが減少し、「小学校の存続」を地域の重要な課題としています。そのために、「地域の子どもは地域で育てる」をモットーに、学校と地域が連携し、むなかた一（いち）行きたい学校を目指し、合同運動会や文化祭、地域の伝統文化の保存継承など地域ぐるみで様々な取り組みを実施し、地域みんなが、江戸時代の農民で親孝行の逸話で知られる武丸の正助さんを目指しています。

昨年度からは、正助さんの寺子屋事業を立ち上げました。さらに、今年度の4月からは、学童保育事業も、コミュニティ運営協議会が担っています。また、新たな取り組みとして、小学校配置のALTを学校だけではなく、コミュニティでも活躍できるように工夫し、国際理解教育を地域でも推進する試みをスタートしました。

⑦ プログラム作成の視点

◆放課後の学習会については、地域の教員退職者や福岡教育大学国際交流連携事業として留学生や地域の男子寮の学生さんの活用を行っている。

◆夏休みの体験学習については、地域内の施設や資源を活用し、歴史文化の継承に努め、地域力の向上に努めている。

◆通学合宿については、コミュニティ・センターを活用し、小学校、コミュニティ運営協議会構成団体や地域ボランティアさんと連携し、行っている。

⑧ 事業の内容

(1) 放課後の学習会

日時：毎週火曜日 15時30分～17時

対象：1年生～6年生

場所：コミュニティ・センター

(2) 夏休みの体験学習

日時：夏休み1泊、日帰り

対象：1年生～6年生

場所：地域内施設

(3) 通学合宿

日時：11月17日～21日 4泊5日

場所：コミュニティ・センター

対象：4年生～6年生

⑨ 事業の成果

- (1) 宿題をする習慣を身に着けることで学力の向上を期待できる。
- (2) 一時預かり的な場所としてのコミュニティ・センターの機能が期待できる。
- (3) 児童の集団における規範意識の向上
- (4) 災害時指定避難所としてのコミュニティ・センターの活用
- (5) 児童間の縦割り交流、家族以外の人たちとの交流によるコミュニティ能力の向上
- (6) 地域高齢者との交流により福祉教育の推進が期待できる。

⑩ その他の活動

◆吉武小学校学童保育事業

指導員 5 人（常勤職員 3 名、非常勤職員 2 名、）による少人数学級を実施している。

⑪ 今後の課題

- ◆地域ボランティアの確保
- ◆元気な高齢者の育成と活用。
- ◆小学校との連携
- ◆財源の確保

⑫ 問い合わせ先

宗像市・吉武地区コミュニティ・センター

〒811-4153 宗像市吉留 3519-1 電話 0940-32-5904 FAX 0940-32-5958

